



令和7年度

学校経営方針

(令和7年4月3日)

狛江市立狛江第三小学校長 所 水奈

I 基本理念

子どもの数は命の数。狛江第三小学校の640人の子どもたちは、一人一人がかけがえない存在である。そして、その命一つ一つがそれぞれの夢・希望・可能性を未来に向けて花開かせていく。だからこそ、子どもの「もっと伸びたい。」「学びたい。」「できるようになりたい。」という思いや願いを、学校という相互に学び合う場で叶えるようにしていくことは、私たち教職員の使命である。

「はじめに子どもありき」の精神で子どもたちの声をよく聞き、その声を子どもたちの学びと成長に生かす「伴走者」として、教職員の職を全うしていく。

「はじめに子どもありき」…常に子どもの事実に戻り、
子どもは能動的な学習者である。
子どもと共に授業を創る。

II 教育目標（目指す児童像）

人間尊重を基調とし、自ら考え正しく判断できる国際性豊かな児童の育成に努め、次の目標をかかげる

- 進んで学び、考える力、表現する力を高めようとする子
- 認め合い、支え合い、協力して行動しようとする子
- 心と体の健康を考え進んで鍛えようとする子

[平成30年3月31日改正]

III 二中ゾーンが目指す伸ばしたい子どもの力・姿

- 郷土「狛江」を愛する姿
- 互いに感謝の気持ちをもつ姿
- 地域の人へ気持ちよく挨拶できる姿

[令和6年度改訂]

IV 目指す学校像

◆ 子ども一人一人が「主役」の学校 ◆

- 1 誰もが自分のよさや個性に気づき、発揮し合える学校
- 2 心身ともに安全・安心で伸び伸びと学べる学校
- 3 楽しく学び「分かった」「できた」を実感できる学校
- 4 教職員の創意と工夫が生きる学校
- 5 保護者や地域と共に子どもの育ちを支える学校



V 学校の教育目標を達成するための指導の重点

狛江第三小学校 教育目標

- 進んで学び、考える力、表現する力を高めようとする子
- 認め合い、支え合い、協力して行動しようとする子
- 心と体の健康を考え進んで鍛えようとする子

二中ゾーンが目指す伸ばしたい子どもの力・姿

- 郷土「狛江」を愛する姿
- 互いに感謝の気持ちをもつ姿
- 地域の人へ気持ちよく挨拶できる姿

子ども一人一人が「主役」の学校

楽しく学び「分かった」「できた」を実感できる学校

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善
→子どもが「主語」となる学びの創造
自ら問いをもち、その問いを解決し、振り返る学びのサイクルの構築
 - 一人一人の状況に応じた多様な学びの推進
→効果的なタブレット端末の積極的な活用
習熟度別指導の充実と学び方を生かす「個別の学習」の展開
 - 一部教科担任制、交換授業等の推進
→教員の専門性を生かした質の高い授業の展開
複数教員による多面的な児童理解
 - グローバルに活躍できる資質・能力の育成
→コミュニケーションの楽しさを実感できる外国語・外国語活動
- ※令和6・7年度狛江市教育研究奨励校

誰もが自分のよさや個性に気づき、発揮し合える学校

- 一人一人の自己肯定感・自己有用感を高める取組の充実
→一人一人のよさやがんばりへの声掛け
活躍できる場や子ども相互に認め合う場の創出
自他共に大切にする働き掛け（認める、褒める等）
縦割り班活動の充実（異学年交流による自己有用感）
- 挨拶の励行
→相手を尊重し気持ちを表す行動（挨拶）の習慣化
- 人権感覚の醸成
→教師によるロールモデルの提示（言葉遣い・呼名等）
発達段階に応じた「きまり」の意味と必要性の理解
- 道徳教育の充実
→自分事として多面的・多角的に考え、議論する道徳の充実

心身ともに安全・安心でのびのびと学べる学校

- 目標をもって運動に親しむ取組の推進
→日常的な体力向上の取組の実施（めあての明確化、体幹の強化）
体育の授業における多様な場・活動の設定
自らの生活を見直し改善する健康教育の実施
- 外遊びによる体力向上の取組の実施
→「ロング昼休み」の実施と様々な運動遊びの紹介
- 「学校2020レガシー」の継続
→オリンピック・パラリンピアン等スポーツ選手による特別授業
お囃子や能等の日本の伝統文化の系統的学習の実施
- 子どもの内面や変容への把握ときめ細かな対応
→WEB-QUを活用した面談等の実施
不安や悩みを相談しやすい体制の整備

教職員の創意と工夫が生きる学校

- 教職員相互の学び合いと資質の向上
→日常的な授業参観・自主的な研修
校内OJTの充実
校内研究による高め合い
サービスの厳正（サービス事故防止の徹底）
- 働きがい・働きやすい職場環境づくり
→会議等の削減と生活時程の見直し
ICTを活用した業務の効率化
相互に支え合う意識の醸成
同僚性の高い教職員集団

保護者や地域と共に子どもの育ちを支える学校

- 地域と連携・協働した教育活動の推進
→学校運営協議会（コミュニティ・スクール）による地域とともにある教育の推進
（多摩川をはじめとした地域を活用、地域で学ぶカリキュラム・マネジメントの展開と持続可能な体制づくり）
9年間を見通した小中連携教育の充実（挨拶、「子どもの声」が生きる、「探究」などの特色ある教育の検討）
積極的な情報発信（学校だより、ホームページ等）

一人一人のよさを伸ばす特別支援教育の充実

- 多様な子どもがいることを前提とした誰一人取り残さない教育の実践
→ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善
アセスメントの充実
ICT機器の活用
 - 全ての学級における特別支援教育の展開
→通常学級と特別支援学級・特別支援教室の連携強化
- インクルーシブ教育システムの構築（インクルージョンの推進）

「チームKOMAS」

学校・家庭・地域が一体となった
教育の推進

チェルビーイングの向上と循環

安全・安心に過ごせる学校づくり

- いじめ・不登校の未然防止の徹底
→居場所づくりと絆づくりによる魅力ある学校づくり
いじめ事案への迅速かつ的確な組織的対応
- 安全教育の充実 *「生命（いのち）の安全教育」を含む
→子ども自ら自分を守る・危険を回避する力の育成
- 安全・安心な教育環境の整備
→清潔でさわやかな教育環境の整備
子どもの目線に立った施設点検の徹底
食物アレルギー事故防止に向けた対応チェックの徹底

VI 学校経営方針を支える基盤

子どものウェルビーイング

- 最も優先されるのは子どもの安心・安全→いじめや事故・事件等から子どもを守り抜く。
「報告・連絡・相談」で迅速かつ組織で対応する。
- 子どもにとって居心地のよい学校 →「明日も学校に行きたい」と思える学年・学級をつくる。
心理的安全性が高い集団をつくる。
- 学校生活の8割は授業、授業で勝負 →「分かった」「できた」を実感できる授業を実践する。
子どもの思いや願いの実現と自他の充実を図る。
- きまりやルールの大切さを学ぶ →学校は小さな「社会」、社会で生きる術^{すべ}を学ぶ。
毅然とした指導は必要不可欠である。

教職員のウェルビーイング

- 子どもの育ちが教職員の「働きがい」 →子どもの変容を捉え、成長に感動する教職員
子どもと共に主体的に学び続ける教職員
- 心理的安全性の高い教職員集団 →誰もが安心して働ける職場、互いに支え合う同僚性
学校経営参画意識の高揚、組織の一員としての自覚
- 働き方改革の一層の推進 →学校・教員が担うべき業務の精査、役割分担の見直し
ICTの活用やペーパーレス化による業務の効率化
- 教職員は子どものロールモデル →子ども・保護者・地域から信頼される存在
教育公務員としての責任と誇りの自覚
- 健康第一・自分第一が基本 →自分の健康は何よりも勝る。そして、家庭も大切。
教職員の自己犠牲はあってはならない。

VII 終わりに

私たちは、国民の信託を受け、子どもたちに等しくその能力に応じた教育をしていく重要な使命を担っています。このことを真摯に受け止め、教育基本法をはじめとした法令等を遵守し、サービス（勤務時間、体罰、会計簿の処理、ハラスメント、交通事故等）の厳正はもちろんのこと、学習指導要領に基づいた教育活動の充実を根幹に、保護者や地域社会の信頼に応えられるよう努めていかなければなりません。

朝、元気に「行ってまいります」と登校し、笑顔いっぱい「ただいま」と帰宅する我が子を嬉しく愛しく見つめ、ありがたいと思う保護者の心を念頭に子どもたちと向かい合っていきたいと考えます。